

外国語指導助手との“Show & Tell”活動に関する考察

宗谷管内及び離島におけるワン・ショット形態での コミュニケーション活動の実用的示唆

江 草 千 春
(北海道利尻高等学校)

“Show & Tell” Activities with ALT in Rishiri High School: Practical Suggestions for Communicative Activities on One-shot Style Visit in Soya District and Northern Islands in Hokkaido

Chiharu EGUSA
(Hokkaido Rishiri High School)

1. はじめに

中学校、高等学校を問わず、近年の英語教室において日本人英語教員(JTE)が外国語指導助手(ALT)と協同して授業を行うこと(チーム・ティーチング)は、珍しい光景ではなくなっている。語学指導等を行う外国青年招致事業として昭和61年に始まったJETプログラムは、最近では、年に6200名を超えるALTを国内に招致している(JETプログラム基本問題検討会, 2001)。実際、筆者の勤務校においてもALTが年に数回、訪問し、JTEとチーム・ティーチングを行っている。

このように、最近では、それぞれの地域や学校で生徒がALTと接することが多くなり、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解」(文部省, 2001)を深められる機会も多くなった、と考えられる。しかしながら、JETプログラムに関しては、様々な問題点も指摘されている。例えば、久島(2005)は、ALTが訪問する学校の同一学級への1年間の指導回数に関して、道内における各市町村の教育委員会を対象とした調査において、「30回以上」と「10回未満」の回答率が拮抗し、学校によるALTの活用の差が顕著であった、と報告している。また、道東におけるチーム・ティーチングのあり方に関して、卯城(1997)は、釧路および根室、十勝管内の教育局、または、市町村内教育委員会に所属する全てのALTを対象にアンケート調査を行った。結果は、広範な地域に点在する多くの郡部小規模校を、年に数回ずつのワン・ショット形態¹での訪問であるため、体系的な指導が出来ず、生徒の「伸び」を実感することが出来な

い、と指摘している。

本論では、このような先行研究を背景に、筆者が勤務している道北の宗谷管内におけるALTの勤務形態について、文献による調査を行った(北海道教育庁宗谷教育局, 2005; 北海道教職員組合, 2005)。また、道内の離島にある高等学校に訪問するALTの勤務形態や活用についても、聞き取り調査を行った。そして、この2つの調査から明らかになったワン・ショット形態によるALTの勤務形態と、ゲーム的な要素を含んだ単発(1レッスン完結)のコミュニケーション活動が多く行われている現状において、どのような活動を継続的に行えば、現在の学習指導要領の最重要課題である「実践的コミュニケーション能力」を高められるのであろうか。ここでは、筆者の勤務校で行ったShow & Tell活動を詳細に報告する。それによって、ワン・ショット形態による訪問においてALTをどのように活用し、「実践的コミュニケーション能力」を高めることが出来たのかを、アンケートの評価も含めて考察する。

2. 宗谷管内におけるALTの勤務形態

現在の宗谷管内は、稚内市、豊富町、浜頓別町、中頓別町、枝幸町、礼文町、利尻町、利尻富士町、猿払村の1市7町1村体制である²。

宗谷管内の教育局、および各教育委員会に在籍しているALTの数は、北海道教職員組合(2005)によると、表1の通りである。豊富町、利尻町、利尻富士町、猿払村の3町1村には、教育委員会にALTが在籍していな

いことが分かる。

表1 宗谷管内に在籍している ALT の数

所 属 機 関	人 数
北海道教育庁宗谷教育局	1人
稚内市教育委員会	1人
中頓別町教育委員会	1人
歌登町教育委員会	1人
枝幸町教育委員会	1人
浜頓別町教育委員会	1人
計	6人

表2 宗谷管内の各市町村における学校数

市 町 村	小 学 校	中 学 校	高等学校 養護学校
稚 内 市	16校	12校	4校
豊 富 町	5校	3校	1校
猿 払 村	6校	1校	0校
浜 頓 別 町	6校	2校	1校
中 頓 別 町	3校	2校	1校
歌 登 町	3校	3校	0校
枝 幸 町	8校	2校	1校
礼 文 町	6校	2校	1校
利 尻 町	3校	2校	1校
利尻富士町	3校	2校	0校
計	59校	31校	10校

また、北海道教育庁宗谷教育局（2005）によると、宗谷管内には、小学校が59校、中学校が31校、そして、高等学校と養護学校が合わせて10校ある（表2参照）。そのうち、宗谷管内の小中学校に関しては、全ての学校でへき地の指定を受けている。各学校の学級数は、小学校が260学級、中学校が108学級、高等学校が70学級である。

このようなデータから、宗谷管内に関しても、久島（2005）が指摘するように、ALT が訪問する学校の同一学級への指導回数は、あまり多くないと考えられる。また、近年、中学校や高等学校への ALT の訪問回数が減ってしまう他の要因として、小学校における総合的な学習の時間が挙げられる。とりわけ、この時間を活用して、ALT が小学校を訪問し、国際理解分野の一環とし

て英会話を学習する機会が増えている（金森，2002）。さらに、卯城（1997）が指摘するように、道東と同じように、道北も広範な地域に学校が点在しているため、どうしてもワン・ショット形態の訪問になってしまう傾向がある。

3. 離島の高等学校における ALT の勤務形態と活用

北海道の離島には、南から北海道奥尻高等学校、北海道天売高等学校、北海道利尻高等学校、そして、北海道礼文高等学校の4つがある。道立の高等学校では、毎年、年度の初めに、JTE が ALT の派遣日程に関して希望日を用紙に記入し、それを教育局に提出する。そして、5月頃に、派遣日程が決まる仕組みになっている。ここでは、離島の高等学校における、ALT の勤務形態や活用がどのようになっているのかを、それぞれの学校のJTE、あるいは、教育局に在籍する ALT に聞き取り調査を行った³。以下に、A高等学校、B高等学校というようにして、その概要を示す。

A高等学校では、教育局から1年に2回（どちらも1日日程で）、ALT が派遣された。この学校は、市町村立であるため、教育局に所属している ALT の他に、町の教育委員会に所属している ALT が、冬期間を除いて、1ヶ月に1回程度、訪問していた。授業は、ALT が主に考えたコミュニケーション活動を行っていた。

B高等学校では、教育局から1年に16回、ALT が派遣された。訪問の1週間前に、JTE が教育局にレッスン・プランを送付している。この学校では、習熟度別展開を行っているため、JTE の加配を受けており、1クラスを2展開に分け、少人数でJTEあるいは、ALT が考えたコミュニケーション活動を行っていた。1回の訪問につき、2日日程で来るため、ALT は、1つのクラスで1、2回の授業をJTEと行っていた。

C高等学校では、教育局から1年に12回（1回の訪問につき、2日日程で）、ALT が派遣された。訪問の1週間前に、JTE が教育局にレッスン・プランを送付している。この学校では、主に教科書の内容に関して、ALT に音読練習や内容に関する質問を生徒にさせていた。

D高等学校では、教育局から1年に8回（1回の訪問につき、2日日程もしくは4日日程で）、ALT が派遣された。訪問の1週間前に、JTE が教育局にレッスン・プランを送付している。この学校では、主にJTE が考えたコミュニケーション活動を行っていた。また、4日日程で訪問する時は、1つのクラスで3、4回の授業を行う事ができるので、プレゼンテーションなどを含むコ

コミュニケーション活動を行っていた。

以上、4つの高等学校におけるALTの勤務形態と活用に関しての概要を示した。ここでは、上記の2点について考察を加える。勤務形態に関しては、4つの学校とも、1回の訪問で、1日、もしくは、2日日程の滞在となるため、ワン・ショット形態での訪問となっている。また、活用に関しても、1回の授業で完結するコミュニケーション活動が多いようである。各高等学校における特徴的な取り組みとして、例えば、A高等学校では、教育局、あるいは、町教委に所属している2人のALTから生徒が授業を受けることができ、彼らにとって良い刺激を与える事ができると考えられる。また、B高等学校では、D高等学校の2倍にあたる16回もALTが訪問している。とりわけ、この学校では、JTEの加配を受けており、きわめて少ない人数での授業が可能であるため、ALTと英語を話す機会が多いと推察される。

4. ワン・ショット形態における英語活動の実践

4.1 「実践的コミュニケーション能力」を高める活動とは

先に述べた通り、宗谷管内の各学校、および、離島の高等学校では、ワン・ショット形態によるALTの訪問が多い傾向にある。この形態では、ゲーム的な要素を含んだコミュニケーション活動が多くなってしまふ、と考えられる(横山, 2002)。それでは、この形態において、現在の学習指導要領の最重要課題である「実践的コミュニケーション能力」を育成するには、「話すこと」、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の4つの技能が関連しあうコミュニケーション活動を、どのように行えばよいのだろうか。また、ワン・ショット形態によるALTの訪問において、1クラス当たり1、2時間という非常に制約された訪問の中で、実際に、生徒がコミュニケーション活動を行い、ALTに英語を発信し、それに関してALTと英語で話し、そして、その活動を評価してもらおう、という有意義な活動をするには、どうしたらよいのであろうか。

ここでは、以上に述べた点を踏まえ、筆者の勤務校で行った実践であるShow & Tell活動について説明する。

4.2 Show & Tell 活動について

Show & Tell 活動とは、藤井・イヴァン(1998)によると、「自分の好きな絵や写真、身の回りの物などを見せて(Show)、それについて英語で語る(Tell)活動」(p. 64)と定義されている。Show & Tell 活動は、スピーチの準備練習となり、英語の授業でもよく取り扱われている。また、この活動において、発表者は「書くこと」、

「話すこと」の技能を伸ばす事が可能であり、他の生徒は「聞くこと」、質問すれば「話すこと」、発表内容を要約すれば「書くこと」の技能が伸ばせる、と言った4技能が相互に関連しあうコミュニケーション活動となる利点を持つ。

4.3 普通科の英語Ⅰと英語ⅡにおけるShow & Tell 活動の実践

実際に、筆者の勤務校で行ったShow & Tell 活動の実践について述べる。ここでは、平成16、17年度の普通科の英語ⅠとⅡで行った実践について、典型的なShow & Tell 活動と、コラージュ⁴の用法を用いたShow & Tell 活動について説明する。

4.3.1 普通科の英語ⅠにおけるShow & Tell 活動

前節でも述べたように、ワン・ショット形態でALTとチーム・ティーチングを行いながらも、最大限の教育効果が発揮できるように、英語ⅠにおいてShow & Tell 活動による実践を行った。この時は、1人1人の生徒が身の回りの物や写真、あるいは、絵などを持って来て、自己紹介も兼ねてALTに紹介をする、という課題にした。

生徒は、利尻町、利尻富士町の観光名所、それぞれの役場、特産品、自分の家、中学校時代の写真、好きな歌手、好きな俳優の写真などについて活動で紹介した。

授業は、3時間の計画で行った。具体的に、最初の1時間目は、Show & Tell 活動で発表する物について、英語でどのように説明すればよいかを、日本語で文章化して考えさせた。

次の2時間目は、ALTと一緒にチーム・ティーチングを行い、日本語を英語に直す指導や、発音、暗唱の指導を行った。

そして、3時間目には、ALTがランダムに生徒1人1人を指名し、生徒は黒板の前に立ち、自分のお気に入りの物、あるいは、写真を指さしながら英語で説明した。その後、ALTは、生徒が発表した物、あるいは、写真について、生徒に英語で質問をした。筆者は、生徒への質問をやさしい英語にパラフレーズしたり、英語で言ってみたい表現がどうしても分からない時に、日本語や英語でヒントを与えたりして、支援を行った。

初めて行ったShow & Tell 活動に関して、生徒は自分のお気に入りの物を、英語でALTに説明する、ということもあり、多くの生徒が一生懸命に取り組んでいた。また、筆者にとっても、生徒1人1人が主役になり、自由度の高い活動であり、非常に有意義であった。また、ALTにとっても、教科書の模範朗読やゲームといった活動が授業では多数を占める中(久島, 2005; JET プ

ログラム研究会, 1996), 生徒が実際に興味を持っている物や, 中学校時代の修学旅行での思い出, 町の観光名所などを知ることができ, 1対1で英語によるコミュニケーション活動も行え, 有意義であると述べていた。

4.3.2 普通科の英語Ⅱにおけるコラージュの用法を用いた Show & Tell 活動

平成16年度の普通科の英語Ⅰで行った Show & Tell 活動が, ALT, JTE ともに好評だったので, 平成17年度の普通科の英語Ⅱにおいても, Show & Tell 活動を行うことを決めた。英語Ⅰで行った時は, 3時間で活動を完結し, あまりにも窮屈すぎたので, 今回は8時間計画で行った(表3参照)。また, 体系的な指導ができるように, 滝口(2003)の英語コレクションを参考にしながら, 見学旅行をテーマにして活動を行った。さらには, 活動を3つの観点から5段階評価を行うようにするとともに, アンケートを実施し, 生徒からも授業評価をしてもらった。

表3 英語Ⅱの Show & Tell 活動における授業計画

計画時数	活動内容
①	見学旅行特別課題(英語コレクション)についての説明
②	パンフレットなどを画用紙に貼り付けるコラージュの作業
③	
④	
⑤	スピーチの原稿作り
⑥	暗唱の練習
⑦	1人ずつ, ALTとクラス全体に発表 ALTによる質問と評価 アンケートによる授業評価
⑧	

注 ①は, 計画時数の1時間目を示す

最初の授業では, ALTの訪問時に新たな Show & Tell 活動を行うと説明し, 1枚のプリントを配布した。そのプリントは, 見学旅行特別課題(英語コレクション)であり, 広島, 京都, 東京の様々な観光名所において, 英語で書かれているパンフレット, 掲示板, お便りなどの中から, 最低2つのものを収集するように指示した(資料1参照)。具体的に, 生徒は, 広島平和記念資料館, 清水寺, 金閣寺, ユニバーサル・スタジオ・ジャパン, 東京ディズニーランド, JRのパンフレットなどを収集していた。

そして, 最初の4時間ぐらいかけて, 生徒にB4サイズの画用紙を配布し, ハサミ, ノリ, マジックなどを利用し, 見学旅行で持ち帰ったパンフレットなどを自由に

切り, 画用紙に貼り付ける作業であるコラージュを行わせた。

授業計画の5,6時間目には, ほとんどの生徒がコラージュを完成させていたので, スピーチの原稿作りと暗唱の練習を始めた。スピーチの原稿を作る前に, サンプルを載せたプリントを生徒に配布した(資料2参照)。そのプリントでは, スピーチの始めの表現と, 終わりの表現については, 筆者が指定した。その他の表現については, コラージュに貼ってある絵から, 生徒が表現を考えた(資料3,4参照)。

授業計画の7,8時間目には, ALTが筆者の勤務校を訪問し, 生徒が順番にALTの指名により, 黒板の前に立ち, クラス全体に向かって画用紙を指しながらスピーチを始めた。そして, スピーチが終わると, ALTより, コラージュに関して質問を受け, それに答えていた。今回は, 英語Ⅰで行った活動とは異なり, 生徒の学習意欲を高めるため, 「発表に対するプレゼンテーション」, 「コラージュの質」, そして, 「積極性」という3つの観点から5段階でALTに評価をお願いした。最後には, ALTからプレゼンテーションのコツを含め, Show & Tell 活動についての講評を頂いた。

全員が Show & Tell 活動の発表が終わった後に, この活動を振り返るため, アンケートを実施し, 生徒から授業評価を受けた。本アンケートは, 7つの質問項目と自由記述からなるものであり, 質問項目については, 以下の通りで, それぞれ5段階で評価をさせた。

- ① あなたはこの活動に積極的に参加したと思いますか。
- ② あなたはこの活動について楽しかったですか。
- ③ あなたはこの活動について, コラージュを作成したり, スピーチを作成したりする時間は, 十分に取られていたと思いますか。
- ④ あなたはこの活動で, 英語の力を高めることが出来たと思いますか。
- ⑤ 今後も, このようなコラージュのような作業を含む活動を行ってほしいと思いますか。
- ⑥ 教師は, この活動について分かりやすく説明や指示を行っていましたか。
- ⑦ 教師は熱意を持って授業に望んでいましたか。

結果は, 表4の通りであった。質問項目①, ②, ③に関しては, 4, 5の評価が50%を越えており, 生徒は, Show & Tell 活動に積極的に参加し, 楽しんでいたことが分かる。また, 英語Ⅰで行った時と比べて, 活動時間に余裕を持たせたので, 質問項目③に関しては, 50%以上の生徒が, 十分な活動時間があると評価した。また,

質問項目④に関しては、40%近くの生徒が、この活動は4技能が相互に関連しあう活動であったため、英語の力を高めることが出来たと評価した。さらに、質問項目⑤に関しては、50%以上の生徒が、今後もこの活動を行いたいと評価した。しかしながら、20%の生徒は、パンフレットを貼ったり、英語の表現を考えたりするのが億劫なため、やりたくないとして評価した。

表4 コラージュの用法を用いてのShow & Tell活動におけるアンケート結果(N=28)

質問項目	評価				
	5	4	3	2	1
	強く思う	それなりに思う	まあまあ	それなりに思わない	強く思わない
①	10人 36%	10人 36%	5人 18%	2人 7%	1人 4%
②	10人 36%	6人 21%	9人 32%	2人 7%	1人 4%
③	12人 43%	6人 21%	9人 32%	1人 4%	0人 0%
④	6人 21%	5人 18%	13人 46%	4人 14%	0人 0%
⑤	7人 25%	8人 29%	7人 25%	3人 11%	3人 11%
⑥	11人 39%	9人 32%	7人 25%	0人 0%	1人 4%
⑦	15人 54%	8人 29%	5人 18%	0人 0%	0人 0%

横山(2002)は、道内の高等教育機関に在籍する学生を対象に行ったALTの授業に関する意識調査において、ALTの授業が楽しかった、あるいは、積極的に参加していたと評価する学生が多かったと報告している。しかしながら、その楽しさ、及び、積極的な態度が、必ずしも英語力の向上にはつながらない、と指摘をしている。本アンケートでは、横山の調査結果とは逆に、質問項目①、②にあたる授業への楽しさ、及び、積極的な態度が、質問項目④にあたる英語力の向上にもつなげることを示唆している。

次に、見学旅行をテーマとするコラージュの用法を用いてのShow & Tell活動では、「実践的コミュニケーション能力」を育成するのに、どのように4技能が相互に関

連しあっているかについて述べる。この活動では、前述したように、発表者は「話すこと」、「書くこと」、聞き手は「聞くこと」の技能を伸ばすことが可能である。それに加えて、今回は、英語で書かれたパンフレットやお便りなどを、見学先で収集してくることを課題とし、画用紙にそれらを貼り付けることを要求した。そのため、パンフレットの資料を見たり、スピーチの原稿を考える時に、その資料を参照したりしなければならない。ゆえに、典型的なShow & Tell活動と比べて、「読むこと」の技能も必然的に伸ばすことになり、4技能が総合的に高められる活動であると言える。

4.4 他のクラスにおけるShow & Tell活動の実践

前節では、普通科の英語Ⅰと英語Ⅱで行った2つのShow & Tell活動について説明した。ここでは、平成17年度の商業科2年生のオーラル・コミュニケーションⅠで行った実践と、普通科、商業科の3年生が履修できる選択科目のオーラル・コミュニケーションⅡで行った実践について、簡略に述べる。

4.4.1 商業科のオーラル・コミュニケーションⅠにおける活動

商業科2年生では、普通科2年生と同様に、見学旅行に行ったので、同じように見学旅行特別課題(英語コレクション)を与え、コラージュを行い、クラス1人1人が黒板の前に立ち、ALTとクラス全体にスピーチを行った。

そして、商業科では、オーラル・コミュニケーションⅠでShow & Tell活動を行ったので、全員のスピーチが終わった後に、普段の授業で学習している通訳訓練法を用いた学習を行った。具体的には、多くの生徒がスピーチで用いた表現の中から30個の単語を選び、それらの単語を日本語から英語へ、あるいは、英語から日本語へ瞬時に変換させる練習を行った。もちろん、生徒の学習意欲を高めるために、スピーチから学習した30個の単語は定期考査に出題した。

4.4.2 普通科、商業科3年生の合同クラスによるオーラル・コミュニケーションⅡにおける活動

3年生の選択科目であるオーラル・コミュニケーションⅡは、普通科10名、商業科2名の計12人で行っているクラスである。普通科、商業科とも、2年次までの履修科目や修得単位が違うにもかかわらず、多くの生徒が意欲的に「話すこと」、「聞くこと」の技能を伸ばすという目標を持って授業に参加している。

このクラスでも、ALTの訪問に合わせて、Show & Tell活動を行った。このクラスでは、Please tell me

your favorite thing というテーマを与え、典型的な Show & Tell 活動を行った。生徒が選んだテーマは、ボジョレーヌーボー、世界遺産、ディズニーキャラクター、渋谷ガールズなど多岐に及んだ。また、少人数クラスの利点を生かし、ALT も 2 つ、あるいは、3 つ以上の質問を生徒に投げかけ、積極的にコミュニケーション活動を行っていた。

5. ま と め

本論では、道北の宗谷管内における ALT の勤務形態について、文献による調査を行った。また、離島にある 4 つの高等学校における ALT の勤務形態と活用について、聞き取り調査を行った。そして、この 2 つの調査から明らかになったことは、卯城 (1997) が道東で行った調査と同様に、宗谷管内、および、離島の高等学校においても、ワン・ショット形態による ALT の訪問が多いことである。従来から、ワン・ショット形態によるチーム・ティーチングでは、教科書とはほとんど関連性がない、ゲーム的な要素を含んだコミュニケーション活動に偏りがちである、と指摘されている (JET プログラム研究会, 1996; ブランビー・和田, 1996)。

しかしながら、本論では、このような現状の中で、ワン・ショット形態でありながらも、生徒が ALT に英語を発信する場面を確保し、その発信したものに ALT がフィードバックを与え、そして、評価する、という体系的な指導を含めたコミュニケーション活動を報告した。この実践の終わりに行ったアンケートによると、Show & Tell 活動を積極的に、楽しみながら参加していた生徒が多かった。そして、そのような生徒の多くが、この活動を通して英語力が向上し、今後も、このような活動を行いたいと答えていた。これは、「ALT とのチーム・ティーチングにおいて、「楽しい」という側面を含んだアティチュードを高めるだけに終わらず、英語力 (コンピタンス) の向上につながること」(横山, 2002) が、十分ではないにせよ達成されているのではないかと考えられる。

北海道は、広大な大地に数多くの学校が点在するため、とりわけ、郡部では、へき地に指定される学校が多くなる。そのため、ALT の訪問が、ワン・ショット形態になってしまう傾向がある。しかしながら、この形態においても、ALT の活用やコミュニケーション活動について、一工夫をすることによって、「実践的コミュニケーション能力」を育成する英語活動が可能である。最後に、私達が住んでいる地域そのものについて、外部に発信できるような活動を、以下に提案する。

・生徒が住んでいる身近な地域ごとに、地域の歴史的

建物、特産品、特徴などを、ポスターやパンフレットにまとめて、役場やフェリーターミナルなどの公共の場所に置いてもらい、地域を宣伝する。あるいは、外国人が来た時に、ポスターを使って説明する。
・外国との姉妹都市交流などにおいて、その地域に住んでいる住民や学校の生徒と、電子メールなどで地域のことなどについて、国際交流をはかる。

このような活動において、ワン・ショット形態で ALT が訪問する時に、生徒がポスター発表などを行い、ALT からアドバイスをもらい、さらにより良いものに仕上げていく。このような事を実践することで、この形態においても、最大限の教育効果が得られる事が可能である、と考えられる。

注

- 1 ALT が各学校に訪問する形態は、ワン・ショット、レギュラー、ベース・スクールの三つに大きく区分することができる (ブランビー・和田, 1996)。
- 2 平成18年4月現在、歌登町は、枝幸町に合併されているが、本論では、特に断りがない限り、合併前のデータを示すことにする。
- 3 聞き取り調査に関しては、平成17年度の取り組みについてである。
- 4 コラージュとは、広辞苑によると、近代絵画の技法の1つで、画面に紙・印刷物・写真などの切り抜きを貼り付け、一部に加筆などして構成する貼り付け絵である。

6. 謝 辞

本論においては、北海道教育大学岩見沢校の村田文江先生、ならびに、北海道教育大学札幌校の横山吉樹先生に貴重なご助言、及び、ご示唆を頂きました。また、北海道教育大学岩見沢校英語教育研究室の石井絵美さんには、原稿に目を通して頂きました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

7. 参考文献

- 卯城祐司 (1997). 「ALT との Team-Teaching における Triangle Model の可能性」『僻地教育研究』51, 63-84.
- 金森強 (2002). 「小学校での英語教育」青木昭六編『新しい英語科教育法 理論と実践のインターフェイス』大阪：現代教育社, 153-156.
- 久島智津子 (2005). 「実態調査からみる ALT の効果的

- な活用』『北海道英語教育学会紀要』5, 31-47.
- シーラ・ブランビー・和田稔(1996).『ロングマン英語指導のキーポイントシリーズ4 ティームティーチングの進め方』東京:桐原書店.
- JET プログラム基本問題検討会(2001).「JET プログラム基本問題検討会報告書」文部科学省.
- JET プログラム研究会(1996).「中・高等学校におけるJET プログラムの現状と課題」『国際理解教育に関する調査研究』委託研究報告書』文部省.
- 瀧口優(2003).『【アイデア集】「苦手」を「好き」に変える英語授業』東京:大修館書店.
- 藤井昌子・イヴァン・パーゲル(1998).『日本語・英語解説による 言語活動成功事例集』東京:開隆堂.
- 北海道教育庁宗谷教育局(2005).『宗谷の教育』.
- 北海道教職員組合(2005).『2005年度北海道教育関係職員録』札幌:北海道教育評論社.
- 文部省(1999).『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』東京:開隆堂.
- 横山吉樹(2002).「学生の意識調査によるティーム・ティーチング及びALT 授業の評価 アティチュードよりコンピタンスを目指す指導の提言」『北海道英語教育学会紀要』2, 3-18.

付 録

資料1

見学旅行特別課題(英語コレクション)

皆さんは、見学旅行中に様々な所(寺・観光名所・デパート、など)に行きます。そして、皆さんが行く所では、様々な英語で書かれた掲示、パンフレット、お便り、などを目にするでしょう。

そこで、課題です。

見学旅行中に、2つ以上、英語で書かれたものを手に入れて下さい。

例：パンフレット

英語の掲示を写真などで取ってきてもいいです。

その他

見学旅行から戻って来た後の授業で、画用紙に、皆さんが持ってきたものを貼って、英語で説明したり、日本語に直したりします。

資料2

見学旅行スピーチ原稿の作成要綱

画用紙に様々なパンフレットや写真を貼って完成させたCollage(コラージュ)を〇〇先生が来た時に、30秒から1分で説明してもらいます。そのために、スピーチの原稿を作りましょう!!

- ① まず、説明したいことについて、物語を書くように日本語で書いてみましょう
- ② 次に、日本語を英語に直しましょう!!(辞書や先生にアドバイスをもらって下さい)
- ③ 英語の原稿が出来たら、清書をして、文章を暗唱できるようにしましょう

ちなみに、スピーチの初めと終わりは、このように言って下さい。

初め

Hello, Ms. 〇〇 and everyone. My name is 〇〇. I would like to tell you about my school trip's memory. I went to Hiroshima, Kyoto, and Tokyo from September 17th to 22nd.

続きは考えて下さい。

終わり

言いたいことが終わったら

That's all. Thank you very much.

Example:

Hello, Ms. ○○ and everyone. My name is Chiharu Egusa.

(○○先生, みなさんこんにちは。私の名前は江草千春です。)

I would like to tell you about my school trip's memory. (見学旅行の思い出について紹介します。)

I went to Hiroshima, Kyoto, and Tokyo from September 17th to 22nd.

(9月17日から22日まで, 広島, 京都, 東京に行ってきた。)

In Hiroshima, I went to Hiroshima Peace Memorial Museum at first.

(広島では, 最初に広島平和記念資料館に行ってきた。)

I listened to the sad story about the experience of atomic bomb from an old man.

(おじいさんから, 原爆体験についての悲しい話を聞きました。)

Please look at this. (時計が貼られている所を指す)

(こちらを見て下さい。)

This clock shows at 8:15 when the atomic bomb dropped.

(この時計は 原子爆弾が落とされた8時15分を指しています。)

Next, please look at this. (TDL のパスポートを指さす)

(次にこちらを見て下さい)

This is the Tokyo Disney Land, or TDL one-day free passport.

(これは, 東京ディズニーランドの1日フリーパスポートです。)

TDL was the first time for me.

(TDL は, 初めて行きました。)

I get on the THREE MOUNTAINS VEHICLES, Space mountain, Big thunder mountain, and Splash mountain. It was very fantastic and exciting.

(私は, スペース・マウンテン, ビッグサンダー・マウンテン, スプラッシュ・マウンテンの3つのマウンテン系の乗り物に乗りました。とてもファンタスティックでわくわくしました。)

That's all. Thank you very much!!

(以上で終わります。ご静聴ありがとうございました。)

資料3

Show & Tell 活動のスピーチの原稿

生徒Aの作品

Hello, ○○ and everyone. My name is ○○. I would like to tell you about my school trip's memory. I went to Hiroshima, Kyoto, and Tokyo from September 17th to 22nd.

In Hiroshima, I saw Atomic Bomb Dome and statue of Sadako. There are many foreign people in Hiroshima Peace Park. It's very happy that many foreign people are interested in the country, Japan, experienced in the atomic bomb.

In Kyoto, I went to the golden pavilion, Rokuon-ji temple. Rokuon-ji was so calm that I was relaxed.

In Tokyo, I went to TDL, or Tokyo Disney Land. In TDL, Halloween events were taken place. Where I said, "Trick or treat!" the staff gave me candies. I was very excited because I saw parade and got on many vehicles.

That's all. Thank you very much.

資料4

Show & Tell 活動のスピーチの原稿

生徒Bの作品

Hello, ○○ and everyone. My name is ○○. I would like to tell you about my school trip's memory. I went to Hiroshima, Kyoto, and Tokyo from September 17th to 22nd.

First, I think in Hiroshima its view is very beautiful because that red leaves are like dancing.

I went to Hiroshima Peaceful Memorial Park, and I thought about peace. This year is sixty years when World War II was ended and Atomic Bomb was dropped. So, the Peace Declaration was released. This is the part of the declaration.

Next let me tell you about Kyoto and Osaka. I went to Kinkaku temple in Kyoto and Universal Studio Japan in Osaka. I used this ticket in USJ. Halloween Day is coming soon, and the Halloween Characters look like the wizard.

I enjoyed School Trip because many experiences was the first time for me.

That's all. Thank you very much.



写真1 生徒のコラージュ作品①



写真4 発表の様子②



写真2 生徒のコラージュ作品②



写真3 発表の様子①